

財務健康診断のご提案

財務健康診断とは??

【1】健康診断結果通知票

この度は企業健康診断を受診いただき、誠にありがとうございます。この健康診断は、企業の決算書に基づいて3つの観点から現状把握を試みています。中には経営には数字に現れない事もあり、その目に見えない部分の方が大切なこともある。とおっしゃる方もおられますが、私たちはそう思いません。それは正しい経営処理を行っていかたり、決算書やこういった分析から目を背けている内に、事実が数字に表れない体質になってしまっているだけです。これを機に改善を願います！



	理想的な状態	改善が必要な状態
資産負債体型チェック ※貸借対照表に基づく	健康体 資産と負債のバランスがとれているため、結果として純資産が積みあがった安全性の高い健康的な状態になっています。	メタボリック症候群 資産を取得するための調達バランスが崩れており、貸借対照表が膨張した安全性の低い状態になっています。
	サラサラ血 売上高→売上総損益→経常損益と言う流れが非常にスムーズになっており、利益が残りやすい体質になっています。	ドロドロ血 売上高に対する原価又は販売管理費のバランスが崩れてしまい、利益が残りにくい体質になってしまっています。
利益血流チェック ※損益計算書に基づく	スポーツマン 損益計算書上の税引き後利益と、経費にはなるがキャッシュアウトがない償却費を足したキャッシュフローが借入返済を上回る理想的な状態です。	虚弱体質 キャッシュフローが借入返済を下回ってしまい、常に資金繰りが逼迫している事が想定できる状態です。

検査項目	評価基準	前回	今回	
総合評価	多面的に見た企業の健康状態チェック	健康	正常	
区分	身体測定	貸借対照表に基づく体型チェック	正常	健康
	血液検査	損益計算書に基づく血流チェック	健康	再検査
	体力測定	キャッシュフローに基づく返済余力チェック	健康	経過観察
BS身体測定	PL血液検査	CF体力測定		
健康体	ドロドロ血	経過観察		

中分類検査項目	基準値	前回	2021年8月	今回	2022年8月
		検査値	判定	検査値	判定
総合評価	—	—	29点 健康	—	19点 正常
BS身体測定	—	—	8点 正常	—	10点 健康
自己資本比率	30%	19%	2点 経過観察	17%	2点 経過観察
流動比率	150%	158%	3点 正常	208%	4点 健康
固定長期適合率★	130%	67%	3点 正常	54%	4点 健康
PL血液検査	—	—	10点 健康	—	4点 再検査
総資本当期利益率(ROA)	6%	12.6%	4点 健康	2.7%	1点 再検査
売上高経常利益率	4%	4%	2点 経過観察	1%	1点 再検査
労働分配率★	60%	50%	4点 健康	58%	2点 経過観察
CF体力測定	—	—	11点 健康	—	5点 経過観察
債務償還年数★	10年	3年	4点 健康	10年	2点 経過観察
実態債務償還年数★	7年	2年	4点 健康	8年	1点 再検査
適正借入金比率★	120%	88%	3点 正常	115%	2点 経過観察

★低い方が点数が高い項目



財務健康診断とは、中小企業の財務状況を診断させていただくサービスです。

財務分析サービスは税理士の方やコンサルタントの方などの専門家がすでに実施されておりますが、分析項目が多いことや分析した後の改善戦略が欠けていることが多く、【現状分析】だけで終わってしまうことが多いです。

上記の現状を踏まえたうえで、

- ①ポイントを押さえて、専門家ではない方でも理解できるようにした
- ②具体的にどう改善していくべきかを示した

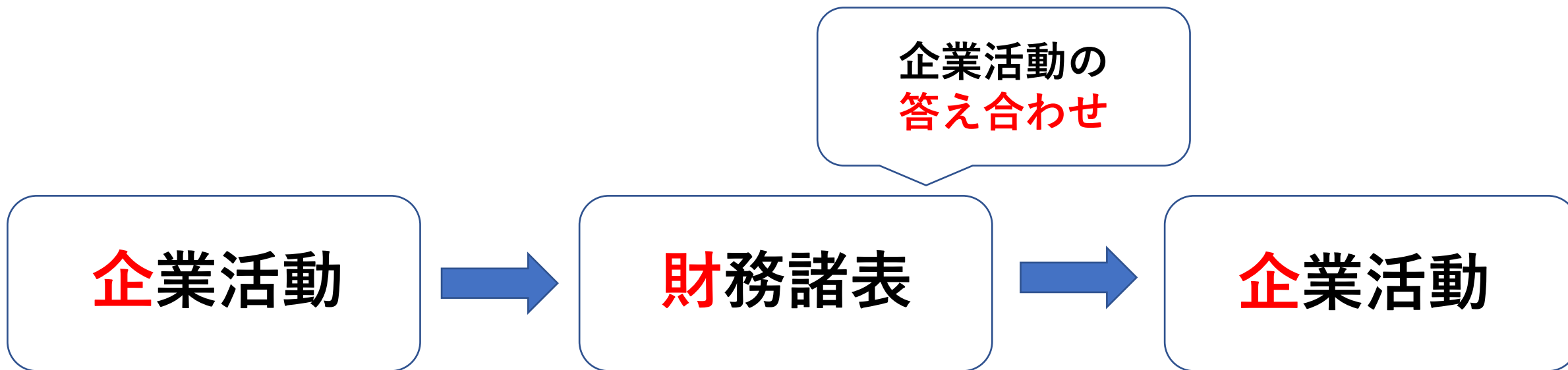
資料となっており、中小企業経営者の方皆様に受診していただきたいサービスです。

◎固定資産合計④～⑥	57,244,842	66,128,951			
①繰延資産合計(事業主債)	0	0			
◎負債合計⑦⑧⑨	133,745,933	176,560,306	◎純負債(純資産合計)⑩	133,745,933	176,560,306

主要診断結果				
分析指標	前期	当期	適正値	所見
自己資本比率	19%	17%	30%	まずは30%を目指しましょう。
流動比率	158%	208%	150%	適正値を上回っています。
固定長期適合率★	67%	54%	130%	適正値を上回っています。
固定比率★	221%	216%	170%	純資産の積み上げが必要です。

その他診断結果				
科目	当期	適正値	判定	所見
現預金販管費率	79%	300%	○	現預金保有は十分な数値です。
全体の講評	自己資本の蓄積が不十分で、業況悪化により一気に資金繰り悪化する可能性がありますので、PL予算を設定し、定期的に進捗することで早めに業況変化を察知する事が重要です。			

財務健康診断を受診していただきたい理由



企業活動の
答え合わせ

企業活動

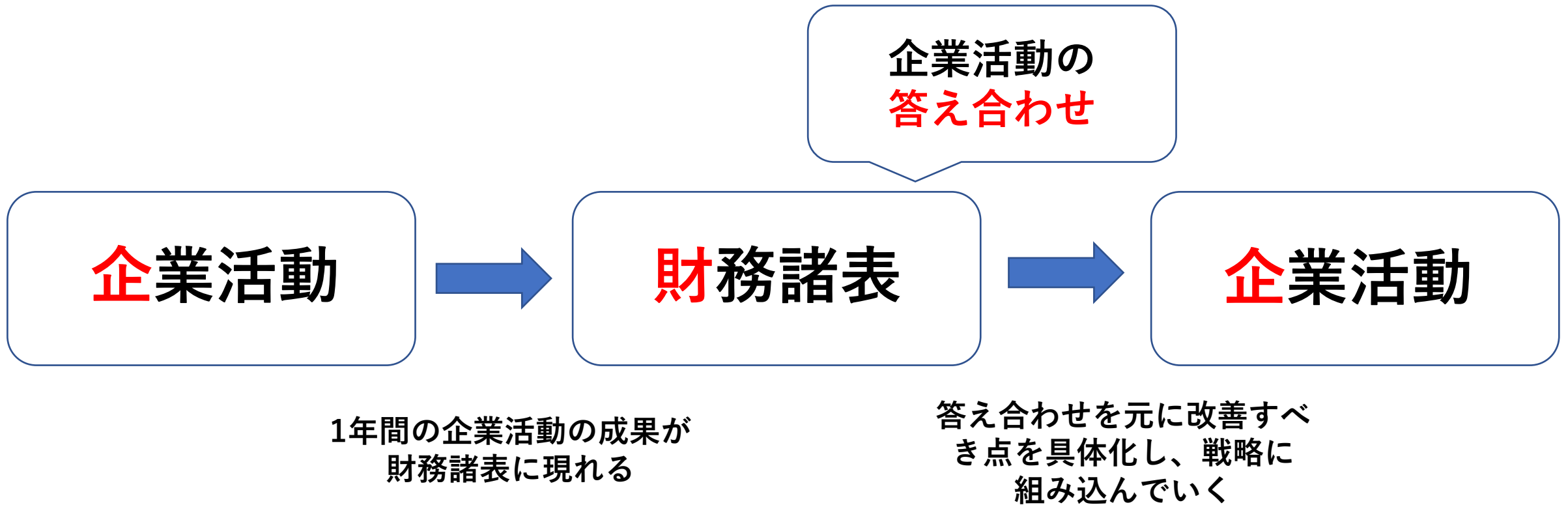
財務諸表

企業活動

1年間の企業活動の成果が
財務諸表に現れる

答え合わせを元に改善すべ
き点を具体化し、戦略に
組み込んでいく

財務健康診断を受診していただきたい理由



現状を把握しなければ、将来を描くことは絶対にできない

サンプル株式会社 御中

財務健康診断

2022年8月

<添付資料>

- 【1】健康診断結果通知票
- 【2】決算書概要
- 【3】貸借対照表に関する財務分析
- 【4】現預金増減分析
- 【5】損益計算書に関する財務分析
- 【6】営業キャッシュフローに関する財務分析
- 【7】総括 ～財務健康診断を現場の行動に活かすために～
- 【補助資料】生命保険の有効活用



HELLObase

【1】健康診断結果通知票

この度は企業健康診断を受診いただき、誠にありがとうございます。この健康診断は、企業の決算書を基に3つの観点から現状把握を試みています。中には『経営には数字に現れない事もあり、その目に見えない部分の方が大切なことある。』とおっしゃる方もおられますが、私たちはそう思いません。それは正しい経理処理を行っていなかったり、決算書やこういった分析から目を背けている内に、事実が数字に表れない体質になってしまっているだけです。これを機に改善を図りましょう！



検査項目		評価基準	前回	今回
総合評価		多面的に見た企業の健康状態チェック	健康	正常
区分	身体測定	貸借対照表に基づく体型チェック	正常	健康
	血液検査	損益計算書に基づく血流チェック	健康	再検査
	体力測定	キャッシュフローに基づく返済余力チェック	健康	経過観察
BS身体測定		PL血液検査	CF体力測定	
健康体		ドロドロ血	経過観察	

中分類検査項目	基準値	前回	2021年8月		今回	2022年8月	
		検査値	判定	検査値	判定		
総合評価	—	—	29点	健康	—	19点	正常
BS身体測定	—	—	8点	正常	—	10点	健康
自己資本比率	30%	19%	2点	経過観察	17%	2点	経過観察
流動比率	150%	158%	3点	正常	208%	4点	健康
固定長期適合率★	130%	67%	3点	正常	54%	4点	健康
PL血液検査	—	—	10点	健康	—	4点	再検査
総資本当期利益率(ROA)	6%	12.6%	4点	健康	2.7%	1点	再検査
売上高経常利益率	4%	4%	2点	経過観察	1%	1点	再検査
労働分配率★	60%	50%	4点	健康	58%	2点	経過観察
CF体力測定	—	—	11点	健康	—	5点	経過観察
債務償還年数★	10年	3年	4点	健康	10年	2点	経過観察
実態債務償還年数★	7年	2年	4点	健康	8年	1点	再検査
適正借入金比率★	120%	88%	3点	正常	115%	2点	経過観察

★低い方が点数が高い項目

①貸借対照表

②損益計算書

③キャッシュフロー

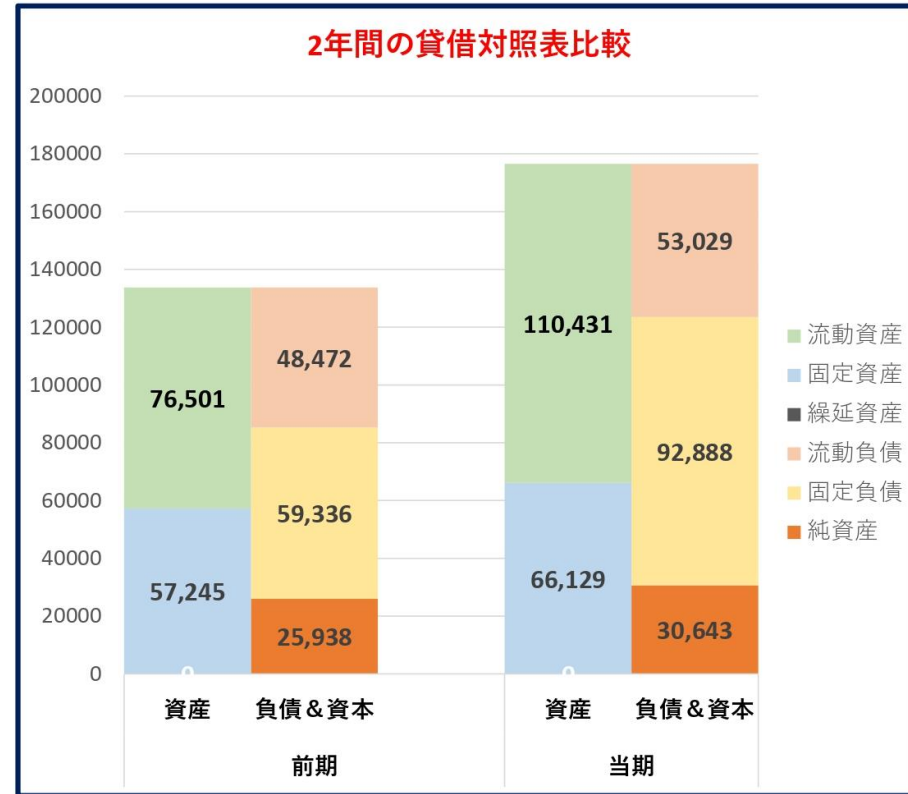
の3つの観点から

御社の決算書の総合評価をさせていただきます。

	理想的な状態	改善が必要な状態
資産負債体型チェック 貸借対照表に基づく	健康体 	改善が必要な状態 メタボリック症候群
	資産と負債のバランスがとれているため、結果として純資産が積みあがった安全性の高い健康的な状態になっています。	資産を取得するための調達バランスが崩れており、貸借対照表が膨張した安全性の低い状態になっています。
利益血流チェック 損益計算書に基づく	サラサラ血 売上高→売上総損益→経常損益と言う流れが非常にスムーズになっており、利益が残りやすい体質になっています。	ドロドロ血 売上高に対する原価又は販売管理費のバランスが崩れてしまい、利益が残りにくい体質になってしまっています。
	スポーツマン 	虚弱体質 キャッシュフローが借入返済を下回ってしまい、常に資金繰りがひっ迫している事が想定できる状態です。
返済余力チェック キャッシュフロー計算書に基づく	損益計算書上の税引き後利益と、経費にはなるがキャッシュアウトがない償却費を足したキャッシュフローが借入返済を上回る理想的な状態です。	

【3】貸借対照表に関する財務分析

資産の部			負債・純資産の部			単位:円
科目	前期	当期	科目	前期	当期	
①現金・預金合計	53,012,164	71,313,644	㉑仕入債務合計	6,463,733	7,384,839	
②売上債権合計	8,287,332	10,293,873	㉒他流動負債合計	42,007,858	45,644,052	
③有価証券合計	0	0	㉓流動負債合計㉑㉒	48,471,591	53,028,891	
④当座資産合計①～③	61,299,496	81,607,517	㉔固定負債合計	59,336,069	92,888,310	
⑤棚卸資産合計	8,384,738	11,938,473	㉕負債合計㉓㉔	107,807,660	145,917,201	
⑥他流動資産合計	6,816,857	16,885,365	㉖資本金合計	5,000,000	5,000,000	
⑦流動資産合計④～⑥	76,501,091	110,431,355	㉗資本剰余金合計	0	0	
⑧有形固定資産計	46,567,140	53,524,868	㉘利益剰余金合計	20,938,273	25,643,105	
⑨無形固定資産計	0	0	㉙自己株式	0	0	
⑩投資その他資産合計	10,677,702	12,604,083	㉚株主資本合計	25,938,273	30,643,105	
⑪固定資産合計⑧～⑩	57,244,842	66,128,951				
⑫繰延資産合計(事業主貸)	0	0				
⑬資産合計⑦⑪⑫	133,745,933	176,560,306	㉛負債・純資産合計㉕㉖	133,745,933	176,560,306	



貸借対照表はイメージでとらえることが理解のポイントです。

現状をベースにあるべき貸借対照表の姿を考えましょう。

主要診断結果

分析指標	前期	当期	適正值	所見
自己資本比率	19%	17%	30%	まずは30%を目指しましょう。
流動比率	158%	208%	150%	適正値を上回っています。
固定長期適合率★	67%	54%	130%	適正値を上回っています。
固定比率★	221%	216%	170%	純資産の積み上げが必要です。

その他診断結果

科目	当期	適正值	判定	所見
現預金販管費率	795%	300%	○	現預金保有は十分な数値です。
全体の講評	自己資本の蓄積が不十分で、業況悪化により一気に資金繰り悪化する可能性がありますので、PL予算を設定し、定期的に進捗することで早めに業況変化を察知する事が重要です。			

【4】現預金増減分析（単位：千円）

前期との 差額	お金の増減	現預金以外の 流動資産の増減	当期	前期	現預金以外の 当座資産の増減	当期	前期
18,301	▲ 15,629	15,629	39,118	23,489	2,007	10,294	8,287
↑	お金の増減	固定資産の増減	当期	前期	棚卸資産の増減	当期	前期
当期現預金残高	▲ 8,884	8,884	66,129	57,245	3,554	11,938	8,385
71,314	↑	繰延資産の増減	当期	前期	他流動資産の増減	当期	前期
前期現預金残高	0	0	0	0	10,069	16,885	6,817
53,012	お金の増減	流動負債の増減	当期	前期	仕入債務の増減	当期	前期
	4,557	4,557	53,029	48,472	921	7,385	6,464
	お金の増減	固定負債の増減	当期	前期	短期借入金 の増減	当期	前期
	33,552	33,552	92,888	59,336	▲ 2,000	18,000	20,000
	お金の増減	想定純資産(利益) の増減	当期	前期	雑流動負債の増減	当期	前期
	4,705	4,705	30,643	25,938	5,636	27,644	22,008
		損益計算書項目	増減	当期	前期		
		総売上高	▲ 16,050	459,694	475,744		
		売上総損益	▲ 16,238	109,182	125,421		
		経常損益	▲ 10,155	6,721	16,876		
		税引き後当期損益	▲ 12,101	4,705	16,806		

現預金の増減は原因を分析することが非常に重要です。

現預金の増減理由は

- ①純資産の増減
- ②負債の増減

③現預金以外の資産の増減

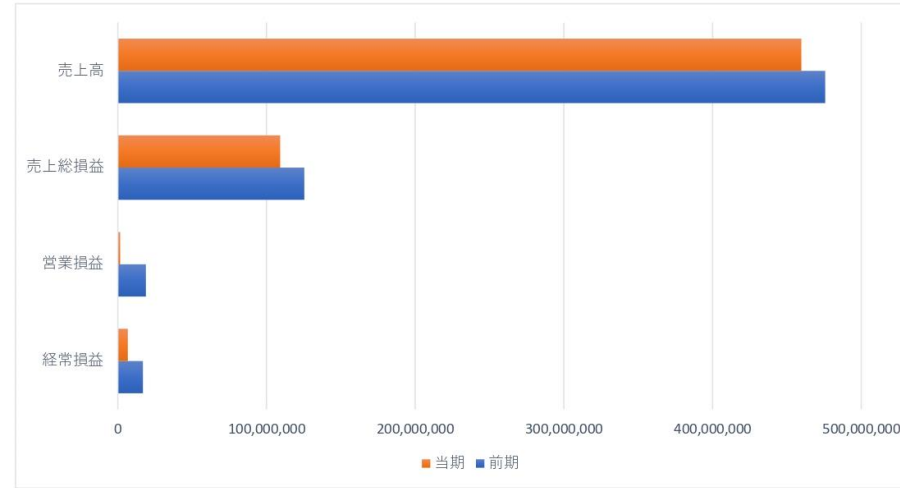
の3つに分かれますので、その内訳を分析します。

現預金の増減要因	資産が増えればお金は減る、減れば増える	負債が増えればお金は増える、減れば減る	純資産が増えればお金は増える、減れば減る
現預金以外の資産は減少しましたが、それ以上の負債増加・純資産増加があったので、結果として現預金は増加しました。	現預金以外の資産が増加したので、現預金は減少しました。	負債が増加したので、現預金は増加しました。	純資産が増加したので、現預金は増加しました。

【5】損益計算書に関する財務分析

(1) 利益構成の全体像

粗利益構成	粗利益構成額		対売上高比率	
	前期	当期	前期	当期
売上高	475,744,221	459,694,243		
売上総損益(粗利益)	125,420,508	109,182,411	26.4%	23.8%
営業損益	18,876,464	1,564,958	4.0%	0.3%
経常損益	16,876,262	6,721,189	3.5%	1.5%
税引前当期純損益	16,876,262	6,721,189	3.5%	1.5%
税引後当期純損益	16,806,262	4,704,832	3.5%	1.0%



損益計算書は、粗利益をどう分配しているかという観点が必要です。

粗利益の金額に対して

①人財費

②顧客費

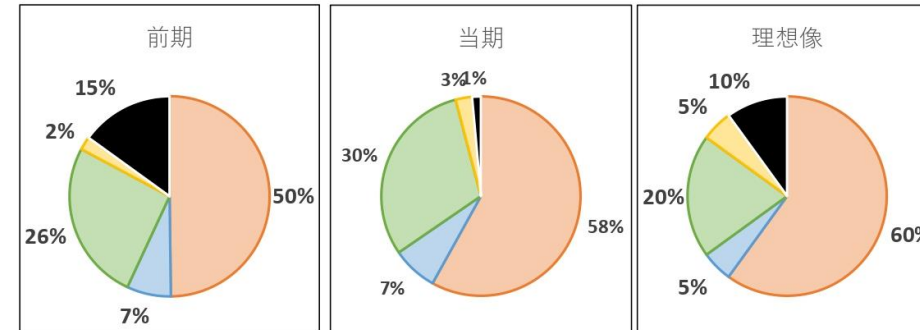
③維持費

④その他固定費

の割合がどうなっているかを分析します。

(2) 営業損益の構成

金額表示		要約PL	粗利に対する構成比率表示	
前期	当期		前期	当期
125,420,508	109,182,411	売上総損益		
62,450,942	63,404,874	人財費	50%	58%
8,953,469	8,035,648	顧客費	7%	7%
32,465,059	33,275,376	店舗維持費	26%	30%
2,674,574	2,901,555	その他固定費	2%	3%
18,876,464	1,564,958	営業損益	15%	1%



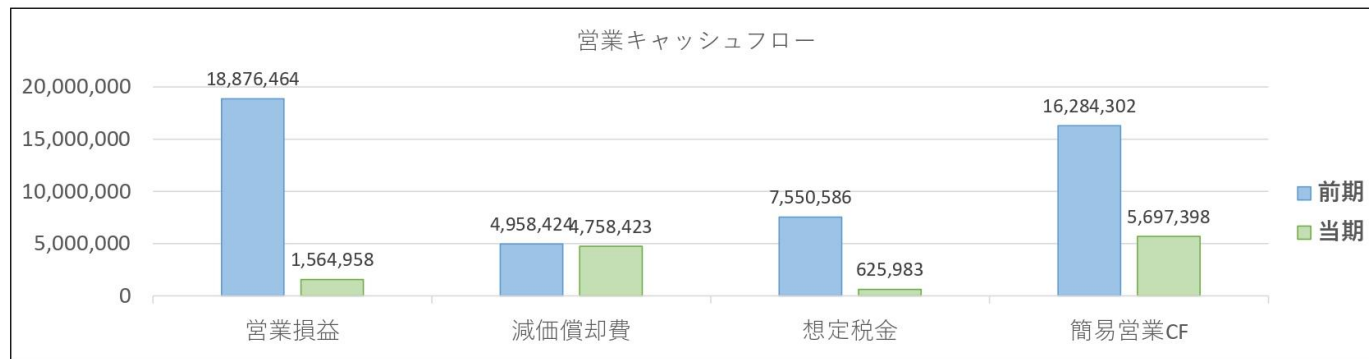
損益計算書についての考察

人財費は比較的健全になっているものの、店舗維持費の割合が高くなっていることから、生産性の改善が望まれます。生産性が低く人財費が適正値になっているという事は、社員から給料に対する不満もでかねませんので注意が必要です。

【6】営業キャッシュフローに関する財務分析

(1) 営業キャッシュフローの構成

営業CF構成	前期	当期
営業損益	18,876,464	1,564,958
減価償却費	4,958,424	4,758,423
想定税金	7,550,586	625,983
簡易営業CF	16,284,302	5,697,398

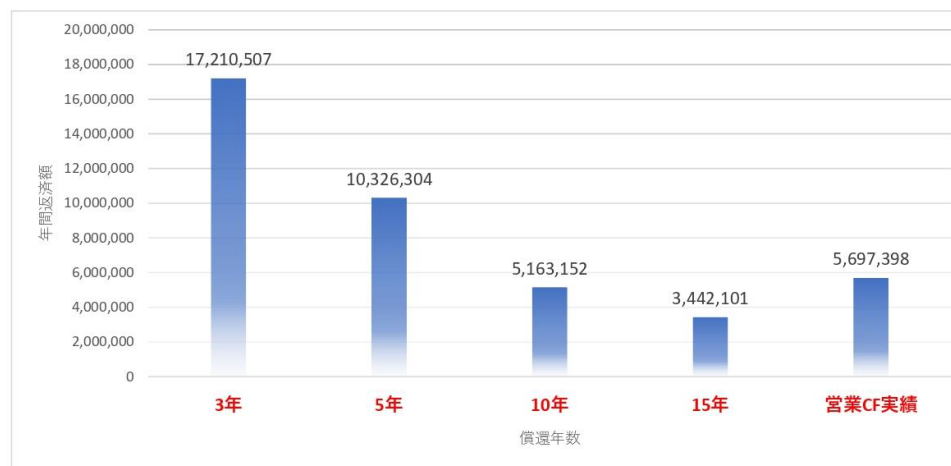


(2) 固定負債(償還債務)と実態償還債務の関係性

償還債務構成	前期	当期	運転資金構成	前期	当期
①固定負債+要返済短期借入	79,336,069	110,888,310	②売上債権	8,287,332	10,293,873
③現預金から3か月分の販管費を控除	26,376,153	44,409,281	④棚卸資産	8,384,738	11,938,473
⑤所要運転資金①+③-④	10,208,337	14,847,507	⑤仕入債務	6,463,733	7,384,839
⑥実態償還債務①-②-④	42,751,579	51,631,522			

(3) 償還年数の変化による年間返済額と営業CFの比較

償還年数	3年	5年	10年	15年	営業CF実績	実態債務償還年数
年間返済額	17,210,507	10,326,304	5,163,152	3,442,101	5,697,398	9.1年



キャッシュフローに対する所見

実態償還債務年数は10年以内に収まっていますが、当期で大きくキャッシュフローが落ち込んでいますので、対策が必要です。

キャッシュフローは借入返済金額とのバランスが重要です。

返済に必要なキャッシュフローが確保できているかどうかを分析します。

【7】総括 ～財務健康診断を現場の行動に活かすために～

項目	優先順位	言葉の意味・優先すべき理由	具体的方法
売上債権の精査		売上債権回転期間に課題があり、回収が遅れている売掛金があるか、最悪売上高の粉飾も疑われかねません。	売掛表など売掛金計上の根拠となる資料を精査する。 場合によっては回収サイトの見直しや売掛先の絞り込みも行う。
在庫高の管理		在庫回転期間に課題があり、不良在庫又は滞留気味の在庫があるか、最悪架空在庫などによる粗利益の粉飾も疑われかねません。	実地棚卸などの根拠資料を精査する(極力毎月が望ましい)。 不良在庫・滞留在庫の処分方法も検討する。
そのほか流動資産の精査		仮払金の精算漏れや立替金・社員貸付金の未回収などが含まれている事が考えられますので、まず実態把握するところから初めて税理士さんと処理方法を考えましょう。	過去の総勘定元帳などから科目ごとに内容を精査し、方針を立てる。
有形固定資産の圧縮		有形固定資産の回転期間に課題があり、投資対効果が劣化しているようです。投下した資本が適正に回収されているかを検証できる状態にしましょう。	減価償却が適正に実施されているのか確認する。 有形固定資産ごとの投資対効果を検証する。
仕入債務の精査		仕入債務回転期間が長期化しており、支払い条件の変更などが要因であれば良いのですが、そうでなければ個社別の買掛金精査が必要です。	売掛表など売掛金計上の根拠となる資料を精査する。 支払い漏れ、振込手数料の相殺漏れなどを検証する。
そのほか流動負債の精査		特別な要因がなく金額が増えている場合、未払金・預り金の支払い漏れ、前受け金の取崩し漏れなどが考えられます。	補助科目の残高精査をし、税理士さんと方針を決める(経費の計上漏れがあるかもしれないため)
資金調達先の見直し		資金使途に対して適正な借り入れ方法、調達金利とはなっていないようですので、資金調達先の見直しも視野に入れておきましょう。	借入明細表(当初借入金額、現状残高、調達金利、担保設定)を作成する。
株主構成の検討		事業承継も含めた株主構成の検討の必要がありそうです。将来の事を考えて長期的な視点で着手しましょう。	実態バランスシートを作成する。 株主構成を考えて事業承継のスケジューリングをする。
(人時)生産性の改革	2	売上高をもう少し細分化して、KPIとの関連性やスタッフの勤務時間にも配慮した分析もチャレンジしましょう。	売上高を細分化したKPIのロジックツリーを作成する。
マージンミックスの改善		売上高の構成と粗利益率のバランスが悪いようです。技術と店販の構成と、その結果としての粗利益率の適正値を把握しましょう。	商品別粗利益率表(予実管理)を作成する。
労働分配率改善		生み出した粗利益額と、それに対する人件費の割合に課題があるようです。人財費の構成を細分化して検証してみましょう。	自社における総報酬の現状と理想像を整理する。 賃金制度が適正なものになっているのかを検証する。
固定経費予算設定	1	生み出した粗利益額と、それに対する固定費の割合に課題があるようです。人財費・顧客費・店舗維持費・その他固定に分けて予算設定しましょう。	固定経費予算を設定する(できるだけ補助科目単位で)。
返済計画の見直し		営業キャッシュフローと年間の返済額に課題があるようです。営業キャッシュフローを増やす事も当然ですが、返済計画も再度考えてみましょう。	月別返済計画表を作成する。
その他気になる点			

財務健康診断の結果、具体的にどう改善していくべきなのかということを示しています。

具体的にサポートが必要であれば【専門家】をご紹介することも可能です。

財務健康診断を受診するためには??

【1】健康診断結果通知票

この度は企業健康診断を受診いただき、誠にありがとうございます。この健康診断は、企業の決算書に基づいて3つの観点から現状把握を試みています。中には経営には数字に現れない事もあり、その目に見えない部分の方が大切なこともある。とおっしゃる方もおられますが、私たちはそう所思いません。それは正しい経理処理を行っていません。決算書やこういった分析から目を背けている内に、事実が数字に表れない体質になってしまっているだけです。これを機に改善を図りましょう！



資産負債体型チェック	理想的な状態 健康体	改善が必要な状態 メタボリック症候群
	資産と負債のバランスがとれているため、結果として純資産が積みあがった安全性の高い健康的な状態になっています。	資産を取得するための調達バランスが崩れており、貸借対照表が膨張した安全性の低い状態になっています。
利益血液流注チェック	サラサラ血	ドロドロ血
	売上高→売上総損益→経常損益と言う流れが非常にスムーズになっており、利益が残しやすい体質になっています。	売上高に対する原価又は販売管理費のバランスが崩れてしまい、利益が残りにくい体質になってしまっています。
キャッシュフロー余力チェック	スポーツマン	虚弱体質
	損益計算書上の税引後利益と、経費にはなるがキャッシュアウトがない償却費を足したキャッシュフローが借入返済を上回る理想的な状態です。	キャッシュフローが借入返済を下回ってしまい、常に資金繰りがひっ迫している事が想定できる状態です。

検査項目	評価基準	前回	今回	
総合評価	多面的に見た企業の健康状態チェック	健康	正常	
区分	身体測定	貸借対照表に基づく体型チェック	正常	健康
	血液検査	損益計算書に基づく血流チェック	健康	再検査
	体力測定	キャッシュフローに基づく返済余力チェック	健康	経過観察
BS身体測定	PL血液検査	CF体力測定		
健康体	ドロドロ血	経過観察		

中分類検査項目	基準値	前回	2021年8月	今回	2022年8月
		検査値	判定	検査値	判定
総合評価	—	—	29点 健康	—	19点 正常
BS身体測定	—	—	8点 正常	—	10点 健康
自己資本比率	30%	19%	2点 経過観察	17%	2点 経過観察
流動比率	150%	158%	3点 正常	208%	4点 健康
固定長期適合率★	130%	67%	3点 正常	54%	4点 健康
PL血液検査	—	—	10点 健康	—	4点 再検査
総資本当期利益率(ROA)	6%	12.6%	4点 健康	2.7%	1点 再検査
売上高経常利益率	4%	4%	2点 経過観察	1%	1点 再検査
労働分配率★	60%	50%	4点 健康	58%	2点 経過観察
CF体力測定	—	—	11点 健康	—	5点 経過観察
債務償還年数★	10年	3年	4点 健康	10年	2点 経過観察
実態債務償還年数★	7年	2年	4点 健康	8年	1点 再検査
適正借入金比率★	120%	88%	3点 正常	115%	2点 経過観察

★低い方が点数が高い項目



■ 貸借対照表

■ 損益計算書

■ 販売費および一般管理費

■ (あれば) 原価報告書

を過去2年分ご準備ください。

◎固定資産合計④	57,244,842	66,128,951			
①繰延資産合計(事業主債)	0	0			
◎◎純資産合計④◎◎	133,745,933	176,560,306	◎負債・純資産合計◎◎	133,745,933	176,560,306

主要診断結果				
分析指標	前期	当期	適正值	所見
自己資本比率	19%	17%	30%	まずは30%を目指しましょう。
流動比率	158%	208%	150%	適正値を上回っています。
固定長期適合率★	67%	54%	130%	適正値を上回っています。
固定比率★	221%	216%	170%	純資産の積み上げが必要です。

その他診断結果				
科目	当期	適正值	判定	所見
現預金販管費率	79%	300%	○	現預金保有は十分な数値です。
全体の講評	自己資本の蓄積が不十分で、業況悪化により一挙に資金繰り悪化する可能性がありますので、PL予算を設定し、定期的に進捗することで早期に業況変化を察知する必要があります。			